

## 平成 28 年度 東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況

研究分担者：青木正志 東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学  
分野

研究協力者：加藤昌昭 総合南東北病院 神経内科

### 研究要旨

【目的】東北地方におけるプリオン病の疫学、症状を調査、解析する。

【方法】2016 年度（平成 28 年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

【結果】プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、2015 年 11 月から 2016 年 10 月現在までの 1 年間で 20 例であった。内訳としては、青森県 3 例、秋田県 4 例、岩手県 3 例、宮城県 5 例、山形県 1 例、福島 4 例であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオン病の症例は 232Met/Arg 変異を伴う 1 例であった。本年度剖検数は 0 例であった。

【結語】東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考ええる。

### A. 研究目的

東北地方におけるプリオン病の疫学、症状を調査、解析する。

### B. 研究方法

2015 年度（平成 27 年度）から 2016 年度（平成 28 年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼

し調査を行った。

#### （倫理面への配慮）

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行い、患者、家族にサーベイランスに協力いただくことに関して書面にて同意を取得した。

### C. 研究結果

プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、2015 年 11 月から 2016 年 10 月現在までの 1 年間で 20 例であった。内訳としては、青森県 3 例、秋田県 4 例、岩手県 3 例、宮城県 5 例、山形県 1 例、福島 4 例

であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオン病の症例は 232Met/Arg 変異を伴う 1 例であった。本年度剖検数は 0 例であった。

### 平成28年度東北地方(6県)総計

	孤発性CJD	遺伝性プリオン病	獲得性プリオン病	分類不能	CJD否定
例数 (H28)	19	1	0	0	2
例数 (H27)	29	5	0	0	13
例数 (H26)	21	1	0	0	1
例数 (H25)	20	6	0	0	8
例数 (H24)	11	0	0	0	5
例数 (H23)	14	1	0	0	1



Department of Neurology, Tohoku University School of Medicine

## E. 結論

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。

プリオン病発症率は東北 6 県人口約 1 0 0 0 万人とすると、年間発症率は約 0.20 人/10 万人/年であり、概ねこれまでと同様の経過であった

地域性はあまりなく、ほぼまんべんなく発生していることがわかる。

今後も継続的に調査を行うことが必要であると考える。

### 平成28年度 東北地方 プリオン病疑い症例数



- 青森 3 例
- 岩手 3 例
- 秋田 4 例
- 宮城 5 例
- 山形 1 例
- 福島 4 例
- 計 20 例

Department of Neurology, Tohoku University School of Medicine

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし